

県病ふれあいコンサート  
**弘前大学医学部管弦楽団**  
初夏の県病コンサート

平成 27 年 6 月 13 日(土) 3pm～  
青森県立中央病院 外来ホール

**出演：弘前大学医学部管弦楽団**

**指揮：馬場正之（県病医療顧問）**



**プログラム**

1. モーツァルト：交響曲第 22 番 ハ長調 Kv162  
第 1 楽章 アレグロ、第 2 楽章 アンダンティーノ
2. 日本の夏： 夏は来たりぬ ～ 海 ～ 浜辺の歌
3. ヴィヴァルディ：4 つのバイオリンの協奏曲 ト長調 Op3-4
4. 佐々木すぐる：月の砂漠
5. モーツァルト：交響曲第 22 番 ハ長調 Kv162  
第 3 楽章 プレスト

# 弘前大学医学部管弦楽団

1994年に弘大医学部学生と教職員によって結成された室内オーケストラ。弘大医学部創立50周年記念式典におけるバッハ第2管弦楽組曲の祝賀演奏(ソロ・フルート:馬場正之、コンサートマスター:新川秀一)が関係者に感銘を与えたことから、歴代医学部長の支援のもとに95年から弘大医学部内の常設団体として活動を開始。教養部で古典音楽論を講じていた馬場正之神経内科助教授(当時)を指揮者とし、時代背景を重視したオーセンティックな演奏スタイルを目指す。創立以来20余年、毎週水曜夕方に医学部コミュニケーションセンターで練習を重ね、弘大附属病院での四季折々のコンサート、医学部関連行事や当地開催の種々の医学会での演奏など毎年数~10数回の演奏活動を続けている。これまで取り上げた主な曲は、ブランデンブルク協奏曲、管弦楽組曲、チェンバロ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲、フーガの技法などのバッハ作品多数、モーツァルトやハイドンのセレナードや初期~中期交響曲、ヘンデル、ヴィヴァルディ、コレルリ、テレマン、パーセル、パツヘルベル、ラモーなど、バロック~古典の管弦楽曲やコンチェルトなど。

## 馬場正之 指揮

学生時代より吉田雅夫氏、多田逸郎氏らにフルートとリコーダーの手ほどきを受ける。1970年より弘前室内楽集団のフルート兼リコーダー奏者として活動。79年ロンドン大学神経研究所赴任と同時にロンドン市ギルドホール芸大でN.ハッデン、P.ピケット各氏にバロック・リコーダーを、J.ソラム氏にバロック・フルートを、W.バーグマン、J.ホロウェイ各氏に古典室内楽を師事。J-P ランパル、A ニコレ、F.ブリュッヘン各氏のマスタークラスを受講。83年帰国し弘大医学部で神経内科を担当するほか、教養部で音楽科今井民子教授(バロックヴァイオリン)と古楽演奏論を開講。85年より島口和子氏主宰の弘前バッハアンサンブルに参加し30年に及ぶバッハカンタータの連続演奏でフルートとリコーダーソロを担当、東京紀尾井ホールでの演奏が「懐の深いフルート」(「音楽の友」誌)と評されたほか、ウィーン、フランクフルト、パリ、ライブチヒ、ニューヨーク、など欧米十数都市で口短調ミサ曲やマニフィカーのソロフルートを担当。95年からは弘大医学部管弦楽団を率い、毎週の練習と100数十回を越えるミニコンサートを指揮。2007年青森県立中央病院に赴任、現在、常勤医療顧問。